



文部科学大臣杯 第58回全日本ボウリング選手権

3月18～21日/稲沢グランドボウル

福満亮選手が史上最年少の選手権者に  
女子は渡辺莉央選手がぶっちぎりの連覇

(公財)全日本ボウリング協会が主催する全日本ボウリング選手権大会は、昨年はコロナ禍で実施できず、2年ぶりの開催となった。依然としてコロナの脅威に気が抜けないなかでの開催とあって、参加は28団体、375選手と、例年と比べ約3割少なかったが、若い力が躍動する大会となった。とくにマスターズ戦では、女子は2年前、17歳4カ月の史上最年少で制した渡辺莉央選手(群馬)が、2年越しの連覇を飾れば、男子は高校2年生の福満亮選手(長崎)が、史上最年少の17歳5カ月で選手権者に輝いた。4種目の獲得ポイントによる団体総合は、男子は群馬県、女子は三重県がそれぞれ初優勝を飾った。

6人チーム戦

男子は前半を3959でトップの群馬 A(清水・長澤・宮澤・須田・清水・瀧村)が、大阪 A(水野・上西・村野・白濱・武本・守屋)の後半の追い上げを57ピン差振り切る7743で優勝した。

女子も前半3697を打って1位の三重 A(谷原・入江・梶田・堀田・新西・柳川)が、後半はややペースダウンしたが、7243で余裕の優勝。2位に7170で和歌山 A(山本・安里・川口・伊勢川・山崎・山本)が入った。

3人チーム戦

男子は接戦だったが、愛知 A1(大月・高平・白井)が、同じ愛知の A2(木村・林・齋藤)に15ピン差の3811で優勝した。最終 G687を打って追い上げた群馬 A1(清水・長澤・宮澤)が3792で3位だった。

女子は前半を1921の1位で折り返した群馬 A1(近藤・渡辺・渡辺)が、最終 Gを522と落としてヒヤリとしたが、トータル3716で、兵庫 A1(石田・知名・立花)を21ピン差退けた。

2人チーム戦

男子は群馬 A2(清水・瀧村)が、全G400アップの安定した内容で2664を打って優勝。2位には2600の大阪 A2(上西・白濱)が三重 A1(甲地・新



▲「終盤のレーン変化に合わせる事ができなかった。最近調子がよくて狙っていたので残念」と3位の宮澤選手



▲2連覇の渡辺選手(左)と、史上最年少優勝の福満選手

畑)を1ピン抑えて入った。

女子は三重 A1(谷原・入江)と神奈川 A1(菅野・佐藤)が最後まで激しく優勝を争ったが、最終 G461を打った三重 A1が、神奈川 A1を5ピン退ける2626で優勝した。



▲「最終Gの9フレは、ここで決めよう欲が出て力が入った」と、目前で優勝を逃した山本選手

マスターズ戦

チーム戦3種目の個人得点(18G)、男子は3998で1位の東海純選手(学生連合)をはじめ上位26名、女子は4026で1位の谷原美来選手(三重)をはじめ上位20名がマスターズ戦に進み、ゼロスタートの12Gトータルピンで争われた。

●男子

「最後に滑り込みでマスターズ戦に残れたので、思い切りやるだけ」という山本青空選手(学生連合)が、9Gを終わって2106でトップを快走、実力者の宮澤拓哉選手(群馬)が22ピン差の2位につけていた。しか

し変化してきたレーンへの対応に二人がもたつく間に、高校(西海学園高)2年生の福満亮選手が山本選手を37ピン逆転してトップで最終Gを迎えた。

左レーンでタップが続くタッチマンスタイルの福満選手に対し、山本選手はフォーススタート、スピアをはさんで6フレからのターキーで逆転したが、続く9フレは薄めでバケットを残すと、カバーもならず、11ピン差の2位にとどまった。ダブルが1個、ノーミスで207としてのいだ福満選手が、トータル2758で史上最年少の選手権者に輝いた。

◎福満選手のコメント

最終Gは全然ピンが飛ばなくて苦しかったけど、我慢でギリギリしのげた。優勝なんて考えていなかったの、実感がないけど、全国大会でのタイトルは新人戦しかなかったので、すごくうれしい。

●女子

前回大会を高校生で制した渡辺莉央選手が、1回戦を731で好スタートを切る「私は逆

転での優勝が多くて、トップに立つと落としてしまうことが多かったのと、できるだけ離れたかった」と、2回戦735、3回戦706と700シリーズを連発して最終4回戦を前に、2位の石本美来選手(広島)に189ピン差をつけて、優勝をほぼ手中にしていた。4回戦も661とまとめた渡辺選手は、トータル



▲「ナショナルチームの選考会がめちゃめちゃ悪くて、不安な気持ちを引きずっていたけど、途中で開き直った」と2位の石本選手



▲「4月から就職するので出られる大会は限られるけど、しっかり成績を残せるように」と3位の水谷選手

2833の大会新記録で文句なしの連覇を飾った。

2位争いは、一度は水谷秋穂選手(愛知)に逆転された石本選手が、最終Gの268で1ピン再逆転する2680で入った。

◎渡辺選手のコメント

もちろん連覇は意識してそれを目標に、しっかり練習をして臨んだ。1週前にあったナショナルチームの選考会もいい感じ(トップ通過)だったので、その流れのままイメージよく投げられた。



▲2年前、高2で史上最年少優勝した渡辺選手は、コロナ禍による中止の1年間をはさんで、さらなる成長した姿を見せた

▲1週前のナショナルチーム選考会で、ユースのエリートメンバーになった福満選手「国際大会のメンバーに選んでもらえるように、もっと頑張りたい」



▲6人チーム戦、2人チーム戦の優勝などで男子団体総合初優勝の群馬県



▲女子6人チーム戦優勝の三重。女子団体総合でも初優勝で、今年の三重国体に弾みをつけた